



れきけん ニュースレター

vol.06

写真：寿都町 カクジュウ佐藤家 撮影：神長 敬 2015年7月



●特集：ことぶきのみやこ「寿都」

～カクジュウ佐藤家ほか史跡調査を振り返って～
登尾未佳

- 活動報告：旧柏野尋常小学校奉安殿、保存修理工事に着手
- 北海道遺産「江別のれんが」を生かしたピザ窯でまちづくり
- 歴史的地域資産の保存活用を進める「北の礎」設立
- パネル展：赤れんが庁舎の歴史と札幌のまち
- おすすめ・れきけんBook

●特集：ことぶきのみやこ「寿都」

～カクジュウ佐藤家ほか史跡調査を振り返って～

北海道の日本海側南部に位置する寿都町は、かつてのニシン漁によって繁栄した日本海沿岸の町のひとつ。大正末期にニシンが穫れなくなるまでは、寿都湾沿岸に多くのニシン漁場が存在していました。その代表的な漁場経営者としてカクジュウ佐藤家があり、現在、町がその漁家建築および周辺の遺構・事績について国の史跡指定を受けることを目標にさまざまな取り組みを行っています。当れきけんは、旧佐藤家漁場の史跡指定に向けた調査を担当し、現在、調査報告書の作成に奔走しているところです。そこで、今回業務の一担当者として、また調査活動の一端に触れた者として、興味深く感じたことを少し書いてみたいと思います。



通常れきけんが関わる調査といえば、主に建物に限定したものが多いのですが、今回は1968（昭和43）年に北海道指定有形文化財に指定された「漁場建築佐藤家」（主屋と土蔵）に加え、前浜の「袋澗（ふくろま）」や主屋裏手の段丘上にあった「干場（かんば）」と呼ばれる遺構についても含まれるため、調査対象が多岐に渡っていることが特徴です。袋澗とは、沖で穫ったニシンを袋網に入れて海中に一時貯蔵する目的で前浜に築造されたプールのような施設（船入澗）で、明治時代に瀬棚や島牧地方、積丹半島東岸などに多くつくられたもの。干場とは、ニシンの身欠きやメ粕（魚肥）を生産するための土地（平場）のことで、これも多くのニシン漁場に付随して見られるものです。私は、今回の調査を通じて、漁場建築の周辺には、このようなものがあることを初めて知りました。さらに、佐藤家におけるこういった遺構の貴重性や価値を明らかにするには、その痕跡を現地で確認するだけでなく、さまざまな史料の読み込みと分析・検証が必要で、専門知識を持つ研究者や学芸員による骨の折れる作業によるところが大きいことを実感しました。今回は、佐藤家主屋の奥に保管され、これまで手つかずだった古文書の存在と、その読み解きが鍵となりました。古文書からは袋澗の築造や干場用の土地取得などを裏付ける情報、さらに主屋とその周りに付属する建物群に関して既往研究からは得られていなかった情報（特に主屋の建築年と工人の関わりを推察できる情報）なども新たに発見されました。そして、何より興味深く感じたのは、古文書を読み解く専門家によって得られた情報が、建物の専門家および袋澗・干場の専門家に受け継がれて（共有して）検証していくという、重層的な作業が、専門家のネットワークにより行われていったことです。また、古文書には当時を知る多くの情報が記されているのですが、同じ情報でも目的によって読み方が異なってくるものなのだなぁ、と気付かされもしました。

この度の史跡指定に向けた調査では、建物と周辺の海、山までを含めて、いにしえの人々の営みを俯瞰的に捉える視点を持たなければならぬことを学びました。その奥深さに触れることができたと同時に、れきけんの活動範囲が広がり、そして何よりも専門家のネットワークがこれまで以上に広がりました。寿都には、“ことぶきのみやこ”ならでは、めでたい巡り合わせがありました。（登尾未佳）



段丘上より見る佐藤家周辺。明治20年代後半撮影
（出典：石橋家／調査報告書より。写真2枚を合成）

上の写真2枚は古文書調査の様子

●活動報告：旧柏野尋常小学校奉安殿、保存修理工事に着手

連携組織である建築ヘリテージサロンメンバーと協働する別海町指定有形文化財「旧柏野尋常小学校奉安殿」の技術調査を経て、8月末には別海町発注により本格的な修理保存工事が開始されることとなりました。

本来、奉安殿は戦前の社会的背景を拠り所に国内各所の学校に建っていましたが、国家神道禁止の立場から撤去され現在目にすることは極めて稀な状況となっています。

旧柏野尋常小学校奉安殿は、そのまま神社等に転用されたことから、今なお現存することが出来ています。右の写真は、左端に現存する「旧柏野尋常小学校奉安殿」と、過ぎて町内に存在していた類似する奉安殿2例の写真です。ポルト屋根、水平の庇、正面扉前の鋳物製門扉等々、同一の設計者の存在、若しくは標準設計の存在など、北海道建築史上においても関心と呼ぶ建築物であり、これから始まる保存修理工事で新たな歴史的価値の発見が期待されるところです。（渡辺一幸）



旧柏野尋常小学校奉安殿



西別尋常小学校奉安殿



別海尋常小学校奉安殿

●北海道遺産「江別のれんが」を生かしたピザ窯でまちづくり

江別の北部農業地域で都市と農村の交流活動（グリーンツーリズム）に取り組んでいる市民活動団体「江北(こうほく)まちづくり会」（萩原一弥会長）は、地元の食材と「江別のれんが」を組み合わせる「オール江別の手作りピザ」で、さらに交流を広める活動を行っています。

この地域は道内有数の野菜と小麦の産地である上に、町村農場のチーズもあり、ピザの食材がすべてそろっています。それらを活かして、手作りピザ研修会や婚活パーティでのピザづくり体験がれんがのピザ窯を囲んで行われ、好評でした。筆者も制作に関わったそのピザ窯（写真）は、れんがを積み上げるだけの組立式で持ち運びもできます。当会では市内のイベントにピザ窯を出品するなど、グループや家庭向けに頒布しています（18,000円）。

江北地区には江別市の「（仮称）都市と農村の交流拠点施設」が建設される予定で、ここを中心に手作りピザを楽しみながら、イベントやパーティによるまちづくり活動が期待されています。

（齊藤 徹、問い合わせ先090-5956-1300）



●歴史的地域資産の保存活用を進める「北の礎」設立

歴史的地域資産の保存活用には、さまざまな道のりがあります。建物を見つける、学術的に評価する、所有者や所有者のご家族と話し合う、改修工事をする。多くの壁を乗り越えて、歴史的地域資産の今があります。その道のりの最終コーナーと思われがちですが、実はもっとも重要なものに「歴史的地域資産の管理運営（事業化）」があります。結果的に、ここがしっかりしていないと、長く建物を残すことはできません。かといって管理運営の方法論だけが先走ってしまうと、所有者さんの気持ちや地域の愛着を得られず、「何のために残したのか？」と本末転倒になります。そのような歴史的地域資産の管理運営に対して、できるだけ実践的な力になりたいと考え、私が仲間たちと共に設立したのが「一般社団法人北の礎」です。地域に愛される管理者になれるよう、尽力したいと思っておりますので、どうぞ、よろしくお願いいたします。

（東田秀美）

●パネル展：赤れんが庁舎の歴史と札幌のまち

北海道のシンボルとして道民はもとより、国内外の観光客にも親しまれている北海道庁旧本庁舎、通称「赤れんが」。その前身は明治6年に完成した開拓使札幌本庁舎（設計：安達喜幸）に始まりますが、完成間もない庁舎が2階ストーブ煙突からの出火で全焼。その後、現在のような姿で生まれ変わったのは明治21年（設計：平井晴二郎）。しかしながら建築的な問題により特徴的な形状であった八角塔が撤去されると、明治42年に再びの火災。不幸にも2度の火災に見舞われた庁舎。建物と周辺のまちの変遷を当時の写真と古地図で辿るパネル展を開催します。



炎上する北海道庁（写真：北海道文書館）

開催場所は、北3条通に面して建設された札幌三井JPビルディングにおいて、まちづくり活動の拠点となることを目的として設けられた「赤れんがテラス」を会場に行きます。みなさん、ぜひお越し下さい。

■パネル展：赤れんが庁舎の歴史と札幌のまち

■主催：札幌駅前通まちづくり株式会社 ■企画協力：NPO法人歴史的地域資産研究機構

■開催期間：平成27年8月28日～9月30日

■場所：札幌市中央区北2条西4丁目 札幌三井JPビルディング 5F 赤れんがテラス

おすすめ・れきけんBook（橋本敏明）



■タウト全集
第二巻日本雑記
■訳者：篠田英雄
■発行所：育生社
弘道閣



■ユース・ホステル
■監修：日本建築学会・運輸省観光局
■編集：彰国社
■発行所：株式会社彰国社



■ライトの住宅
自然—人間—建築
■著：フランク・ロイド・ライト
■訳者：遠藤楽
■発行所：株式会社彰国社



■住宅全書
■編者：主婦の友社
■発行所：株式会社主婦の友社



■SD選書2
現代建築12章
■訳者：山本学治
■発行所：鹿島研究所出版会

編集後記

赤れんが庁舎のパネル展準備のために北海道文書館（赤れんが内）に何度も通いました。驚いたのは、アジア系を中心とした観光客の多さ。みんなで並んで記念写真をとるひと、建物を丹念にカメラにおさめるひと、周辺に座り込んでアイスや冷たい飲み物を取りながら休むひと、真剣な表情でパンフレットに見入るひと。わたしは3度、シャッターを押してほしいと頼まれました。

思いかえせば、わたしも国内、海外を旅行すると、かならず古いお寺や教会などを見てまわっていました。そしてそこには多くの観光客が訪れていたことを思い出します。観光客で賑わう様子を目にしたとき、あらためて赤れんが庁舎の魅力、建築的価値、地域的価値を再認識するとともに、歴史的地域資産は、観光資源としての役割、地域の歴史やまちの成り立ちを伝えていく役割、交流人口の拡大を図る役割など、様々な価値や役割があることを実感した瞬間でした。みなさん、ぜひとも赤れんが庁舎の歴史に触れるパネル展に足をお運びください～！（神長 敬）